

## 第4回意見交換会の開催報告

1.日時：令和2年7月17日 18時06分～19時18分

2.場所：名古屋市役所 12A 会議室

3.団体名：ラブリーアース Japan、相生山の四季を歩く会

4.市出席者：緑政土木局企画経理課 上杉主査（企画）

道路維持課 姫野主査（安全対策）

道路建設課 蒲野主査（事業調整）

緑地事業課 岩本課長、中村緑地計画係長

5.参加者：10名

6.当日の次第

(1) 開始のあいさつ

(2) 世界の「AIOIYAMA」プロジェクトに関する現状報告

(3) 入り込み交通対策について

(4) 弥富相生山線について

(5) 相生山緑地の基本計画の検討について

(6) 終了のあいさつ

7.主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）

（世界の「AIOIYAMA」プロジェクトに関する現状報告）

○天白区役所で開かれた説明会において、都市計画を廃止し、緑地を整備する世界の「AIOIYAMA」プロジェクトが説明され、それについて意見を伺いたいというのがこの意見交換会のはずで、道路廃止に向けてのステップとしてあったはず。

○去年の6月くらいの委員会で、行政が出した名古屋市総合計画の案に対して意見が出て、道路廃止などの文言を撤回した。当初は全部ひっくるめて、世界の「AIOIYAMA」プロジェクトに入っていたのではないか。

○渋滞対策にしても、入り込み対策にしても、公園緑地の整備にしても、どこでもやることであり、ことさらに名古屋市総合計画に出してあるが、入れなければいけないことではない。

（弥富相生山線について）

○渋滞対策はどこでもやっていると思うが、効果が出たかという調査は他のところでもやっているのか。

- 対策工事終了後の交通量調査は、他の路線でもやっている。
- 検討会議で出されたフローチャートでは、世界の「AIOIYAMA」の実現をするために、道路の都市計画廃止、緑地の都市計画変更がセットであり、そのための渋滞対策や入り込み対策、或いは調査なのか。仮に別のものだったら、今日説明しなくてもよいのでは。
- 平成 30 年の説明会でも渋滞対策の話をしており、実際工事を進めている状況なので、進捗状況も伝えておくべきと思っている。
- 地元住民にしてみれば、対策をしてくれていると思うので意味はあるとは思いますが。
- 都市計画を変更するためのスケジュールの一環と理解しているが、それでよいか。
- 渋滞対策したことで、すぐに弥富相生山線の廃止と直結するものではない。地域の皆様にとっては昔から渋滞があり、行政として解消していくべきものなので対策を行っている。
- 道路がなかったら困るという意見については、2014 年 12 月 26 日に河村市長が廃止と言った時点で終わった。都市計画の変更とは別のところで、納得してもらうために説明をすればよい。
- 私たちが一番話したいのは、これからどういう風に相生山緑地を進めていくかについて。意見交換会は、道路廃止するためであり、道路を造るかどうかは市長が決めたことだから終わった話で、線引きをしていただきたい。
- 市長が言われたのは政治判断で、大所高所に立って判断したのだと思う。それに従って行政も動いたのだろうし、私たちも受け止めた。市長の政治判断がおかしいということであれば、そう思った人たちはリコールするしかない。そこまで踏み込んで行政としては考えてもらいたい。
- 市長が道路廃止を表明したが、それによって廃止が決定したわけではなく、その方向で検討していきなさいという指示であり、まだ市民の皆さんから理解が得られていない状況。
- 道路廃止について説明不足があるとわかり、また市長から、検討会議において事実を示すよう指示されており、しっかりした事実を示すために調査をしている。道路廃止以外の意見は、意見交換できないということではない。
- 市長判断で道路廃止が出た時点で、話し合いがなされていたと思っていたが、あくまでそういう方向で検討していく段階だったということか。
- 元に戻っているような感じがする。どこまで戻っているのか。
- 第 3 回の意見交換会で、道路がどうなるかの質問を出した時に、そういった検討

をする部署はないと回答があったが、その後請願採択されわからなくなってきた。

- どこまで戻ったかは主観的な話になってしまう。道路廃止について理解が得られていない状況で、道路開通を求める請願が採択され、議会の意思が示された。道路をしっかりと評価する必要があると分かり、再度調査をしているという段階。
- 道路を造らないといけないという結果が出たら、それを示すのか。
- 予断を持たずに出てきた結果を示す。調査結果に関して意見を出してもらえれば、検討会議に報告をしていく。
- 道路を通してほしいと言っている人は、ホテルは外からやってきたからもともといなかったという言い回しをしている。そういう人たちに対して、一生懸命調査をしてデータを出して通用するか心配。
- それぞれによって受け取り方は異なってくると思うが、我々は結果を示すので、それに対して意見を出してもらえればと思う。
- 調査よりも大切なのは、なぜ道路をやめるかという判断に至ったかということ。市長は自然が大事、道路はそこまで必要なのか、決まったことはやらないといけないというのは悪い癖なので改める、という3つくらいしか言っていない。このことを地域住民にはきちんと説明をしないといけない。なぜ道路が不要かデータを出すことではなくて、姿勢が問われていると思う。

(相生山緑地の基本計画の検討について)

- 緑地の検討会への意見は、今日の意見交換会である程度出さないといけないのか、時間的余裕はあるのか。
- 言っていた方がよい。枠組みとして、市民団体の方、地元の方、有識者、行政で同じテーブルで検討していくということは、基本的にこの方向で進めていきたい。
- 地元から今までのことを踏まえた人が来ればよいが、わからない人が来ると、一緒になってやりましょうという話にならない。今の意見交換会の進め方と別の手当てがいる。
- 名古屋市総合計画に掲載されている「相生山緑地事業の推進」のための予算は、どれだけ何のためについている予算なのか。
- 相生山緑地事業の推進についている予算は、2億4,660万円の一部。予算内容は、検討会の立ち上げ、運営。相生山緑地全体で調査できる範囲での飛翔調査と幼虫調

査、陸産貝類の調査。

○調査は去年も行っていなかったか。

●令和元年度は、素案で示したふれあいの丘の周辺を中心に、ホタルの幼虫調査、土壌水分の調査等を行った。令和2年度は、相生山緑地全体のホタルの飛翔調査。直近で把握しているのが平成20年で、それ以降把握できていなかったのもので、今回調査をしている。飛翔調査では、最大飛翔の5月下旬の前後で3回、260地点ぐらいで調査し、結果もまとまっている。

○調査結果によって、園路整備を検討すると聞いたことがある。

●平成30年12月の素案では、園路として建設済み道路を活用して、ふれあいの丘にアクセスする計画を考え方として示した。昨年度、ふれあいの丘にアクセスするためのルートを検討したが、意見交換会でもいろいろな意見が出て、議会での意見や請願などの状況を見ると、具体的な検討を進められる状況ではなく、現在は検討が止まっている状態。

○ゾーン計画とかは今はないのか。

●検討会では、緑地のあり方やどういう環境を目標にしていくか、利用方法などをしっかり整理したうえで、ゾーニングを考えていかないといけないと思っている。

○ゾーニングの前から考えるということか。

●相生山緑地をどのような緑地にしていくべきかということから、話をしていきたい。意見交換会をやっているなかで、考え方が団体ごとに違っていることが分かったが、合意形成をしていければと考えている。

○自然と触れ合う人はたくさんいるが、道路を通すことに関しては、降ってわいたような話で、納得がいかない。

○素案はなしにしてと聞こえたが。

●たたき台として素案を示したものである。アクセス園路については、検討を進めていく状態にないと考えている。

○ふれあいの丘の構想はどうか。

●オープンスペースは、防災の観点から、ある一定の規模は機能として必要だという考えは変わっていない。防災計画に位置付けられている広域避難地であることを考えると、ある程度の人数を収容できる広場は必要。広場をどう活用するか、素案としてバーベキューなど示してあったが、皆さんと検討会で考えていきたい。

○相生山緑地をどうするかという基本的なことを話し合っていないうちに、素案が出てきたが、それを最初に話し合いたいと理解したがよいか。

- それでよい。素案はたたき台として出したので生きているが、これをもとに検討をしていけばいいと思っている。
- 自然を大事にという時に、相生山緑地の自然が何かという合意はほとんどできていない。団体によって違うだろうし、また地元も違う。その中でゾーニングが出された。このゾーニングでいいのか、広域避難地は必要なのかもしれないが、それをどこに持っていくかなど話し合えるなら検討会は賛成、同意できる。